

RISE with SAP へのクラウドシフト！

～徹底的なシンプル化と日本初のGroup Reporting本稼働～

2022年7月13日-15日

三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社

三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社
産業・サービス事業管掌 産業第一事業部
韓 剛熙 (かん ごうき)

- ・紹介事例のプロジェクトリーダーを担当
- ・SAP経験7年間
SAP ERPを中心としたクラウド移行、SAP S/4HANAコンバージョン、
Unicode変換、マイグレーション等プロジェクト多数経験



商号	I-PEX株式会社 (I-PEX Inc.)
設立	1963年7月10日
代表者	代表取締役 社長執行役員 土山隆治
本社所在地	京都市伏見区桃山町根来12番地4
資本金	109億6千8百万円 (2021年12月31日現在)
株式上場市場	東京証券取引所プライム市場 (証券コード: 6640)
グループ会社数	国内: 4社 (I-PEX株式会社を含む) 海外: 17社
事業内容	コネクタ及びエレクトロニクス機構部品事業 自動車電装・関連部品事業 半導体設備及びその他の事業



To be the Sharpest
最・尖端を、世界へ。

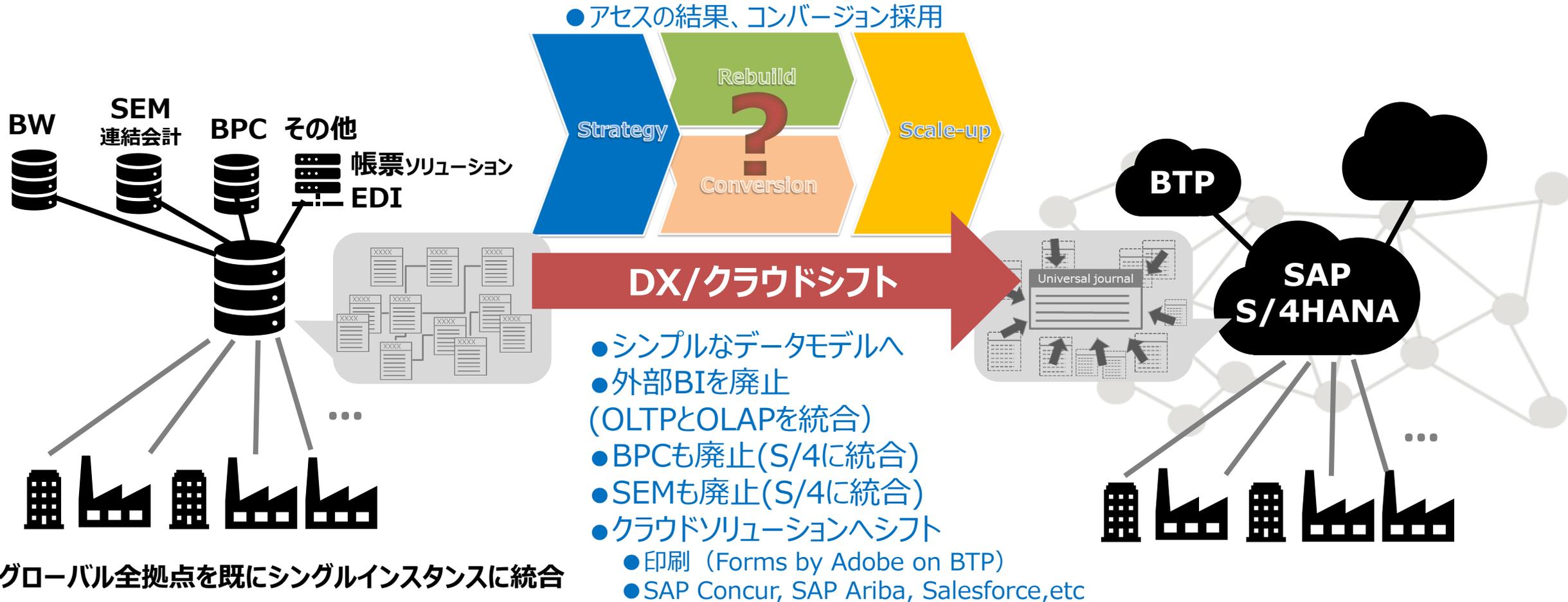
Our Product Field
今日を支える、明日を築く、
I-PEXの技術。

- 自動車部品
- ノートPC・タブレットPC
- テレビ・デジタルカメラ
- 電子機器半導体・車載半導体
- ロボット・医療・工業など
- 複合コピー機・プリンター
- スマートフォン・ウェアラブル端末
- HDD (ハードディスクドライブ)

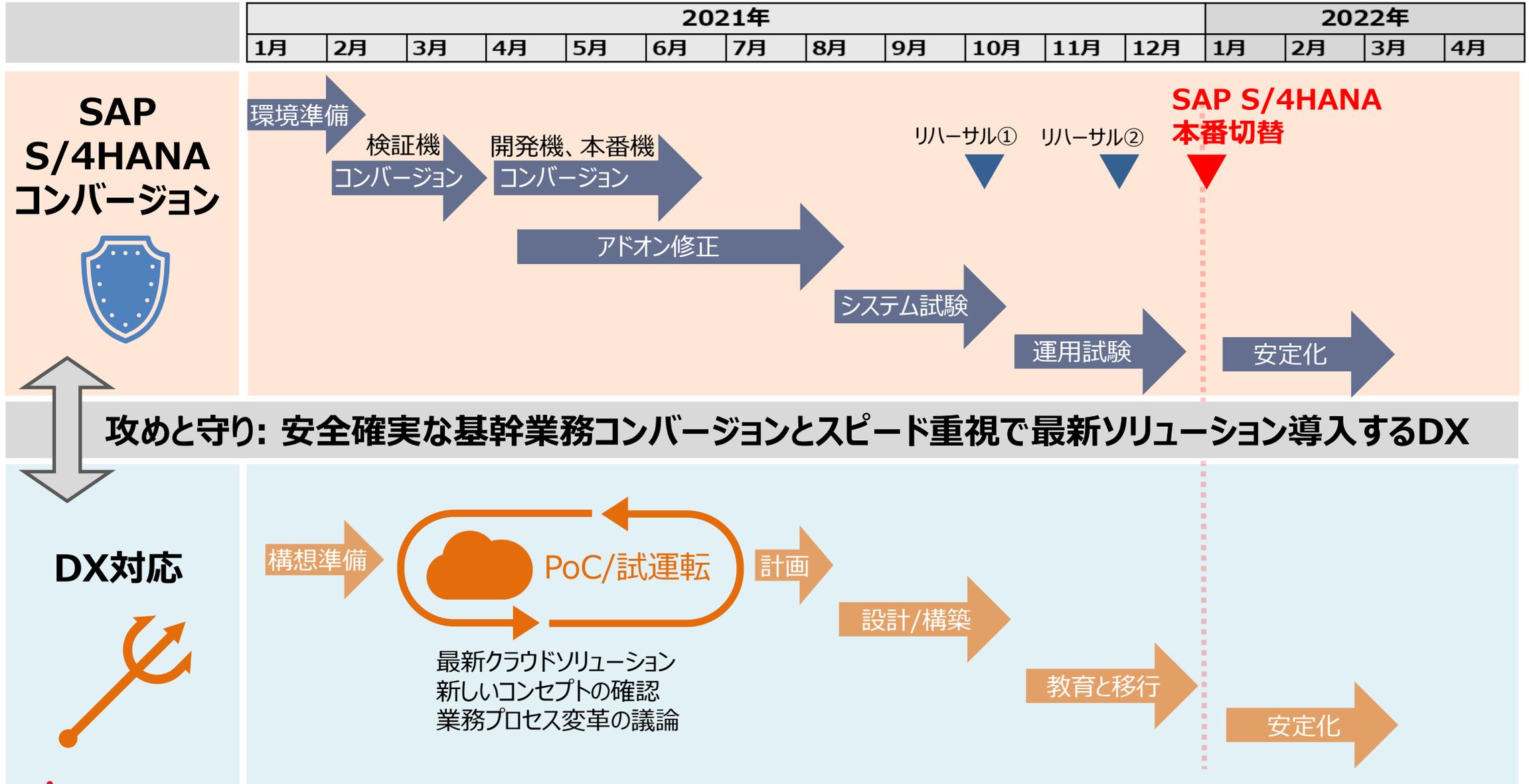
I-PEX

RISE with SAPシフトで目指したシンプル化イメージ

既にシングルインスタンスに統合されているERPをさらに徹底的なシンプル化/ひとつのみの原則を推し進める



攻めと守りのプロジェクト方法論・工程



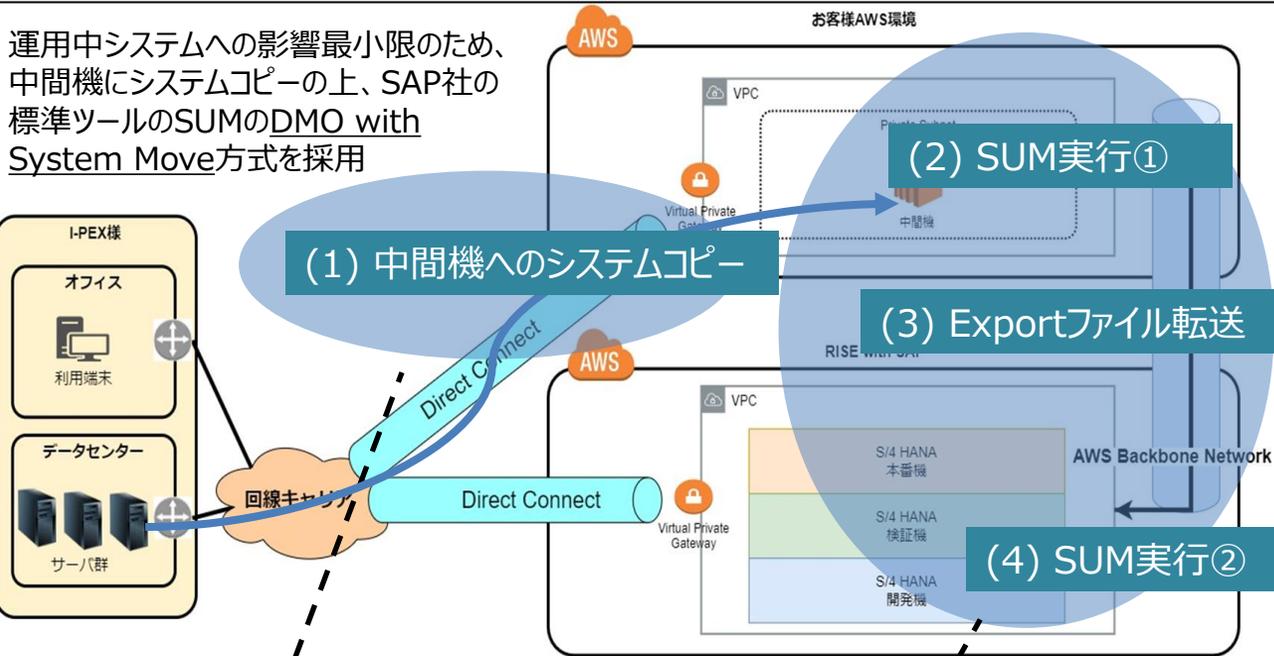
SAP S/4HANAコンバージョンの勘所

#	要点/重要ポイント	説明
1	SAP S/4HANA化環境での品質を担保するための、 十分なテスト実施 ⇒意味あるテスト項目の立案、テストデータ準備	<ul style="list-style-type: none"> ■ SAP S/4HANA化に伴い、BPマスターの使用・与信管理モジュールの変更・品目コードの桁数変更・廃止トランザクション発生等といったSAP標準機能の変更、更に、画面変更、権限強化が発生。 ■ アドオンについて、アセスメント結果も踏まえた修正が必要。加えて、チェックツールでは検出されない箇所の修正が必要なこともあり。
2	通常業務への影響極小化、更にはビジネスダウンタイムを踏まえた、 確実な移行作業	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクト期間中、運用中の業務への影響極小化の考慮。SAP S/HANAコンバージョン作業において、RISE with SAP上の作業前にBPマスター調整、データExport等といった作業が必要。 ■ テクニカル面での移行作業時間の極小化。 ■ 移行手順、移行時間精度を上げるため、リハーサルは2～3回実施。
3	帳票、監視、ジョブ、I/Fの 周辺システムはRISE with SAP固有要件を加味 して早めに検討	<ul style="list-style-type: none"> ■ I/Fボリュームは既存クラウド、またはオンプレ側で配置し、RISE with SAP側からCIFSマウントする仕組み。 ■ SAP S/4HANAはLinuxサーバのため、既存環境がWindows Serverの場合はバッチのシェル化も必要。
4	既存クラウド、オンプレとRISE with SAPの ネットワーク接続方式や名前解決 方式も早めに検討	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既存環境とRISE with SAP接続は既存環境のNW構成を踏まえて検討必要、DR構成にする場合はDRサイト接続も踏まえて検討。 ■ 名前解決はRISE with SAP環境からのオンプレミスDNSサーバへのゾーン転送方式が標準。

紹介事例のダウンタイム実績

移行パス概要図

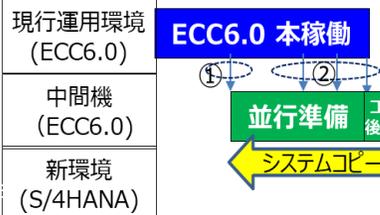
運用中システムへの影響最小限のため、中間機にシステムコピーの上、SAP社の標準ツールのSUMのDMO with System Move方式を採用



システムコピー時間(1時間未満)短縮

- ①事前フルバックアップ転送
- ②DB更新差分転送

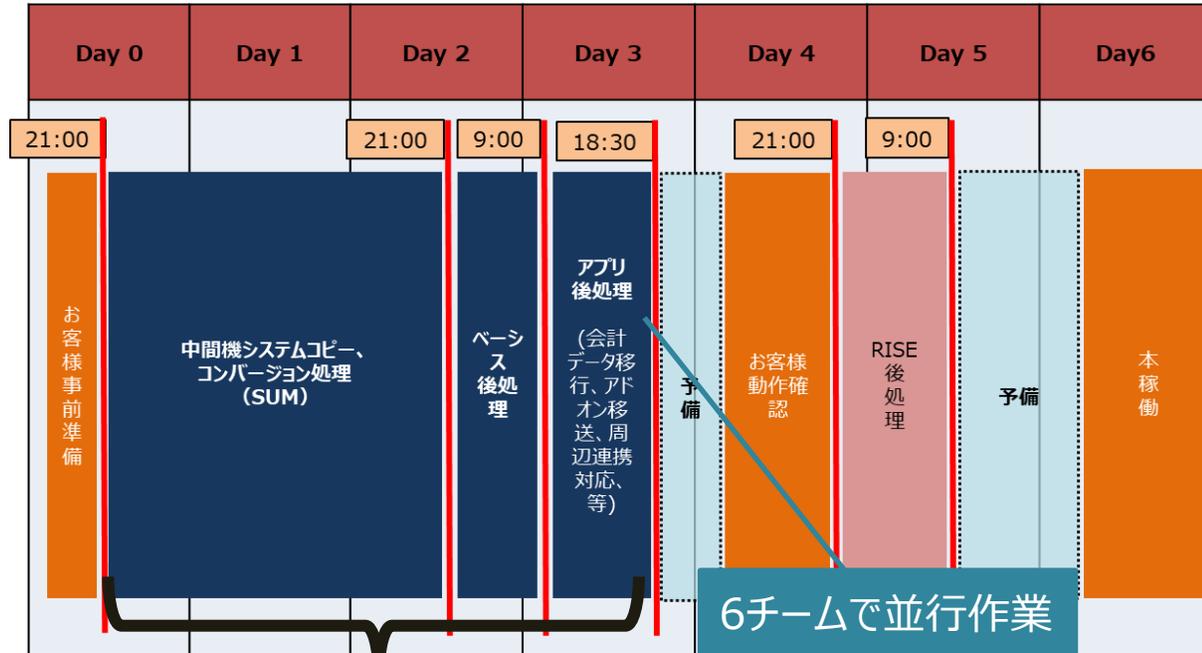
■弊社提案
(ダウンタイム
極小化対策
込の場合)



SUM処理時間短縮

- ①DBメモリチューニング
- ②システムパラメータチューニング
- ③サーバスペックー時調整
- ④SUM並行処理数チューニング
- ⑤ノート適用移送ファイル再利用

本番切替実績



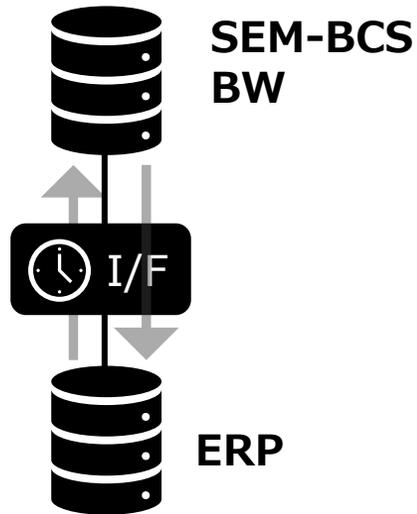
69.5時間

アプリ作業含む、データ量は約1TB、
一回目の実績は約250時間

※RISE with SAP側の作業時間も考慮して
ビジネスダウンタイムを決定必要

連結会計GR(Group Reporting)の導入

SAP S/4HANAファイナンスソリューションの高度化を採用、
制度連結のスピードアップ、管理会計の強化のため連結プロセスのシンプル化



- 従来方式
- ・BWはオンプレ
 - ・連結会計はSEM-BCS
 - ・個社決算結果をインターフェース
 - ・リアルタイム性はない



連結数字の鮮度/精度の革新

- ✓ ERP統合各社のFI伝票そのまま連携
- ✓ リアルタイム/オンデマンド
- ✓ 連結数字から個社FI伝票までトレース

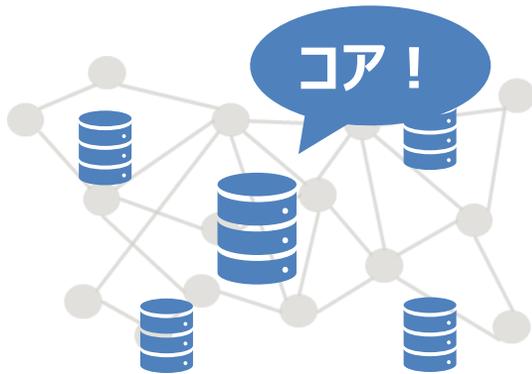
- 国内導入事例なしの最新ソリューション
- 不足機能あり（順次リリースされる）
 - ・棚卸未実現や固定資産未実現機能
 - 代替機能による実現・アイデア
- 最新機能/ICMR等のPoC
グループ間取引を伝票レベルで照合など
連結プロセスの根本的コンセプトの違いを確認

基幹システムの刷新はビジネス環境の不確実性に備える好機 ← 強固でありながら柔軟性もある経営基盤

SAP S/4HANAへのマイグレーションは“チャンス”

ERPデジタルコア

- ✓ 堅牢なのに柔軟
- ✓ 競争力の源泉・基盤



プロジェクト実行力

- ✓ 経験値が重要
- ✓ 全てオンラインで達成



将来の拡張も見据えて

- ✓ スピード重視
- ✓ 製造IoT/垂直統合



■ 弊社ホームページ

<<https://www.mdiss.co.jp/>>

■ 弊社SAPソリューション

<<https://www.mdiss.co.jp/service/sap-erp/>>

■ 弊社お客様事例

<<https://www.mdiss.co.jp/case/>>

■ ご相談・お問合せ

<<https://www.mdiss.co.jp/contact/>>

ご注意

- ・本書の内容の一部又は全部を当社に断りなく、いかなる形でも転載又は複製することは、固くお断りします。
- ・本文記載の社名、製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。

